
作者&友人…そして例のキャラ達の紹介

エンディング・ED

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

作者&友人：そして例のキャラ達の紹介

【Nコード】

N9706X

【作者名】

エンディング・ED

【あらすじ】

この小説は——作者が出す予定のキャラ達と：作者の友人達の紹介文です（笑）

インタビューの様な形式で行きたいと思います！

1. 作者とその友人（早速グダグダだ〜；）（前書き）

エン「こんにちは、作者です！ここはただの自己紹介です；」

OP「読み流しても良いって言う人は、どうぞ！」

エン「…次のは暫くかけないかも；」

作者以外全員「オイ！！！」

1. 作者とその友人（早速グダグダだ〜；）

ここは——とある洞窟の中にある、居住スペース。

そこにいる人物こそ、作者である。

マリオ「え〜：早速、突撃インタビューしま〜す（ったくよ…何で俺が…）」

マリオ「…で、あんたが作者だよな？」

エン「その通りですよ♪私はエンディング！」

（※ここら辺はほぼマリオの視点です；）見た目は普通の男。黒すぎる茶髪で、目は普通。何故か俺達がかぶってる帽子と似たのをかぶってるんだよな；

模様はEが傾いた様な感じで…色は青だ。

マリオ「一つ聞きたかったんだが…その帽子はどうしたんだ？」

エン「作っただですよ♪」

OP「手先は器用なんだよな♪」

マリオ「誰だよ!？」

OP「俺はOP!!こいつ（エンディング）の友人だよ♪」

…こいつも同じ様な帽子かぶってやがる…。色はオレンジで…模様

は…Oだな。

マリオ「…仲良いんだな；」

OP&エン「もっちゃん♪」

マリオ「じゃあ最後に…それぞれをポケモンに例えてみてくれ。」

OP「エンディングは喋り方が正体現す前のヨノワールだよなWW」

エン「OPは…性格からして…ギャロップ（♂）でしようかねえ…。」

マリオ「…成る程な；…え〜と…そろそろ次に行くんだけど；」

OP&エン「じゃあ一緒に行こう！」

マリオ「どうやってだよ；」

OP&エン「これ（スクーター）で！」

…現実では運転できません；

マリオ「…；…じゃ、じゃあ出発な；」

OP&エン「「ヒアウィゴー♪」」

そして…グダグダした自己紹介の旅が始まった…；…；

次回：有名な兄弟の住む王国へ！！

1. 作者とその友人（早速グダグダだ〜；）（後書き）

マリオ「なあ…次ってまさか…」

エン「それは言わない事!!!」

OP「それでは、次回をお楽しみに♪」

1・5. 王国へと向かう道中の悲劇（前書き）

エン「前回の続き書くぞー!!!」

マリオ「何かやる気マンマンだな」

OP「そりゃあ…暇だからな。」

マリオ「オイ!!!」

1・5. 王国へと向かう道中の悲劇

…前回から数分しか経ってないが…マリオはOPにマイクを渡した
(笑)

マリオ「何でなんだ？」

OP「そりゃ、次にマリオの紹介とかがあるからな。」

マリオ「…やっぱ次って…」

エン「言うなよ!？」

マリオ&OP「「良いから前向いて運転しろよ!!!」」

マリオ「やっぱ俺…あっちに乗らなくて良かったわ；」

そう、それは数分前――

エン「出発準備OK♪」

OP「マリオ!俺の後ろに乗れよ♪」

マリオ「何で？」

OP「…………地獄を見たくないなら乗れ；」

マリオ「え…あ…お、おう；」

そして現在――

マリオ「にしても知らなかったぜ…。まさかここまで…」

ぼやくマリオの視線の先にいるのはエンディング。周りの土管を危なっかしく避けている。

OP「あ、気をつけろ！！ジャンプ台あるから！！！」

叫んだが遅かった様だ。エンディングは見事に後輪を土管に引っ掛けている。

エン「え、ちょ、あゝ……………」

エンディングは土管に入ってしまった。二人は顔を見合わせ、出口の土管付近で待機していた。

エン「コイン大量に拾ったぞ♪」

と、エンディングは出てきた。何故かボム兵を連れているのには触れず、三人はそこを後にした。

そして――やっと次の場所へと辿りついた。

次回…やっと平穏なインタビューが…；；

1・5. 王国へと向かう道中の悲劇（後書き）

マリオ「てか何で一回もブレーキ使わないんだよ!?!」

エン「何か嫌なんですよ!?!」

OP「何だろうこのグダグダ感（笑）」

???「…早く出して欲しいなあ…。」

2. 王国に住むキャラ達!!! (前書き)

エン「今日は張り切って二つ目!!! やっとアイツが……!!!」

マリオ「誰だ???」

エン「………良く知ってる筈ですがねえ……。」

2. 王国に住むキャラ達!!!

ドタバタとした移動からさらに少し。三人が着いたのは……

マリオ「やっぱり、キノコ王国じゃねえか!!!」

そう、我等がスーパースター・マリオの出身である、キノコ王国である。早速、キノピオ達が話し掛けてきた。

キノ1「あ、マリオさん!!! おひさしぶりです!」

キノ2「お元気でしたか?」

マリオ「おう!!! お前等も元気そうだな。」

三人が話している間に、エンディングとOPは目的の場所へと向かった。

〽場所…マリオの家〽

OP「…という訳で、マリオの家の前へと来ました。」

エン「彼はいるのかなあ?????」

OP「ノックしよう♪(トントン)」

…………。

エン「…留守?」

OP「良し、入ろう。」

エン「Σいやいやいや!!それは流石に!!」

OP「クッパだって何回も不法侵入してんじゃない?俺等だって大丈夫だろ♪」

そして、二人は不法…ゴホン、アポ無し潜入をした。

エン「ルイ君いるかな?」

OP「いたいた♪寝てるけど。」

ルイ君こと、ルイージは…ソファーでお昼ね中の様だ。可哀想だが、起こさなければ;

エン「ルイくーん、起きろー。」

ルイ「ん…??誰!??」

OP「俺等だよ♪ほら自己紹介♪」

ルイ「え…あ…。僕はルイージです…。」

エン「因みに彼のお兄さんはマリオです♪」

OP「次は…この城まで案内してくれ♪」

ルイ「何で僕に…???」

エン「君のお兄さんとはぐれたんですよ（笑）」

まあ実際には置いて来たただけなのだが；

OP「さあ出発だー♪」

エン＆ルイ「「ちょ、無理やり引っ張らないでよ!!!」」

二人は見事なハモリを見せながら、OPに引っ張られていった。

（場所…キノコ城（あれ、ピーチ城だっけ；））

OP「おお…広い!!!」

ルイ「多分ロビーだけで…僕等の家が十個は入ると思うな；」

それは流石に無いだろう；

エン「あれ？あそこの茶色いキノコ…キノじいじゃない？」

三人で近寄ってみた。キノじいだった；

キノJ「おお、何をしとるのかね？」

OP＆エン「「インタビューの様なモノですねえ…。」」

…彼はキノじい。恐らく最高齢ではないだろうか；ピーチ姫のじいやさんだ。

ルイ「あの…ピーチ姫は？」

キノJ「謁見の間じゃろうから…行ってみると良い。」

ルイ&OP&エン「「「ハイ!!!!」」」

三人はキノじいと別れて、謁見の間へと向かった。

（場所…謁見の間（多分、ゲーム中には無いと思われます；））

三人は、謁見の間でくつろいでいる女性を発見した。彼女こそ、プリンセス・ピーチである。

ピーチ「あら…何か用かしら？」

OP「色々と自己紹介してもらってます！ピーチ姫もどうぞ！」

ピーチ「私はピーチ。キノコ王国の未来をいつも祈ってます…。」

そこへ…ガシャッ!!!!と音がして、ガラスの破片が散った。

エン「いったー!!? 刺さった!!」

ピーチ「何事ですか!!!?」

??「ガッハッハッハ!!!ここにいたのか!!!」

インタビュー最中に入ってきた影…それは、クッパ!!!クッパは姫を搔っ攫っていった!!!!

ルイ「あ！！姫！！！！！」

OP「何でいつも波乱の展開に！？」

エン「どっちでも良いから追おう！！！！（破片メツチャ痛い…覚え
てろクッパ）」

そして、三人はクッパクラウンの影を追いかけた。

次回…あの城への潜入！！！！

2. 王国に住むキャラ達!!! (後書き)

マリオ「なあ…途中から俺、空気になってないか？」

エン「き、気のせいでしょう???.」

ボム「……。」

OP「いやいや喋れよ; (ED化しなきゃ良いけどな…。)」

2・5. 移動中の悲劇…再び（前書き）

エン「……………（クッパめ…）。」

OP「……；（き、気まずい…）」

ルイ「で、では始まり…；；；」

エン「本当は10月31日に投稿したかったなあ…。」

2・5. 移動中の悲劇…再び

前回、ピーチを攫われてしまった！ さあ、追うぞ！！

OP「…って言われても…；先にヨッシーん所行くか？」

ルイ「僕は良いけど…；」

そこは否定しろよ、お前…；

エン「かまわないよ？」

OP「んじゃ、行こうぜ♪」

三人は（前回と同じ様に）スクーターに乗っている。マリオは置いてきた；

（場所…ヨッシーの家（緑のヨッシー））

ここは…良くマリオに協力している、緑ヨッシーの家だ。

ルイ「ヨッシー、いるかい？？」

ノックしてから数秒後。ドアが開いて、ヨッシーが顔を出した。

ヨッシ「何でしょうか…？？」

OP「自己紹介してください！！」

ヨッシ「えー!?あの、私はヨッシーです。好きなものは…食べ物全般ですね。」

相変わらずの食欲のようすなあ…。

ルイ「そうだ、ヨッシー大変なんだ!またピーチ姫が…」

ヨッシ「またですか;まあ行きましょう!」

こうしてヨッシーが加わり、四人(?)になった。ルイージはヨッシーに乗った。

ヨッシ「こっちがクッパ城です!!」

ヨッシーの先導に従い、四人は家を後にした。

↓場所…クッパ城へと続く道↓

ヨッシーの先導で、ここまで来たのは良かった。だが、ここからが問題だった。

ヨッシ「まず…直線に行くと、敵が多いんですが城に近いです。」

ま、良くありますなあ。

ヨッシ「そして…曲がると城に遠いんですが…罠が多いです。」

そうそう、ありきたり…な訳ねえじゃん!!何で罠が多いんだ!?!三人は疑問にも思っただけ;

エン「じゃあ直線に行けば良いわけだな♪」

そういうとエンディングは…スクーター放置で歩き始めた。…早速、ノコノコと揉めているが。

エン「通してください；」

ノコ「何でだ？」

エン「クッパ大王にインタビューです。」

ノコ「ならいい。」

おい。もうちつと警戒しろよ。案の定、通れたのはエンディング一人だったけど。

OP「がんばれよー（笑）」

ルイ「気を付けてねー!!」

ヨッシ「ドンマイです。」

さまざまな声を聞きつつ、エンディングは進んでいった。

く場所…クッパ城ロビーく

クッパ城に入ったエンディングは、ふと飾りを見た。カボチャや蝙蝠…まさか？

クリ「何の御用で？」

受付（！？）にいたクリボーが聞いてきた。

エン「クッパ大王にインタビュー形式で自己紹介を！」

クリ「それなら、もう直ぐ終わるので、そちらに掛けていて下さい。」

言われて腰掛けた。何故ピーチを攫ったのか…それは、次回！！

次回：攫った理由と空気になっていた男！

2・5. 移動中の悲劇…再び（後書き）

エン「今回は長く書いたぞ〜♪」

OP「確かにな♪」

ルイ「一人で行くのは凄いなあ〜。」

マリオ「俺は出れるのだろうか…。」

エン「それは次回♪」

3. 攫った理由と空気の男（前書き）

マリオ「何だよ上の題名（怒）」

エン「さあねえ。」

ルイ「兄さんやめなよ；エンさんも。」

OP「本当は10月31日に投稿するはずでしたー！！（エンさん
って誰！？）」

3. 攫った理由と空気の男

前回、クツパに待たされたエンディング…。のん気にパタパタと喋っていた…。

エン「へえ…なら、ミドパタの上が赤パタで、その上が青パタ…。」

パタ「そういう事です。私は後少しで赤なんですよ。」

エン「頑張ってくださいね。」

そのお陰で見事にクツパに気づかなかった訳だが。

クツパ「我輩を待っているのは貴様か？」

エン「ん？」

パタ「クツパ様!!」

クツパ「何か聞きたい事があるそうだが？」

エンディングは振り向き…少し停止した。服が違う!?

エン「…その服は一体…?」

クツパ「うむ、これか?これはハロウィンとか言うヤツの衣装だが…。」

??「僕がしたいっていったらしてくれたんだ!」

突然、クツパに似た声がした。その声は丁度クツパの後ろ辺りからした。

?? 「僕はクツパJr. ! 宜しくね!」

エン「あ、ハイ。」

Jr. とクツパの衣装は…狼男風の衣装だ。ピーチも出てきた。衣装の見立てだったのか?

ピーチ「あら、お久しぶりね。そうだ、あなたも仮装しない?」

そういうピーチの衣装は魔女風だ。まあ、エンディングは返事の前に引きずられて行ったが。

エン「あ〜れ〜。」

それをとめないクツパもあれだが(笑)

〜その頃のOP達〜

彼等は…とても暇そうにしていた。

ルイ「遅いなあ…。」

OP「まあ大丈夫だろ。アイツには切り札があるしな。」

ヨッシ「切り札とは?」

OP「Σ何でもねえ!!」

ヨッシ&ルイ「「????」」

くそしてクツパ達の方く

エンディングが再び引きずられて来た。さっきとは衣装が違う。

ピーチ「やっぱり彼、ドラキュラが似合うわね（笑）」

ピーチの言葉通り、エンディングはドラキュラの格好をさせられている。

エン「…；気を取り直して…クツパ！自己紹介を!!」

クツパ「む、我輩か？我輩はクツパ!!カメ一族の長である。」

エン「J r. もどうぞ♪」

J r. 「僕も良いの?…僕はクツパJ r. ！コクツパ七人集の中で一番偉いんだぞー!」

まあ、そうかどうかは良く分からないのだが。

クツパ「さて…子分達！今日は敵味方関係なく、楽しんでこい!!」

子分「「「「オー!!!」」」」

皆散り散りになってどっか行きました（笑）

クッパ「さて…我輩達も行くか…。」

Jr. 「二人も一緒にいこーよ♪」

エン「…お言葉に甘えますか…??」

ピーチ「そうしましょ♪」

〽その頃のOP達〽

OP「なあ、何でこんなにわさわさしてるんだ？」

OPがやっとノコノコに聞きました。

ノコ「しらねえのか？ハロウィンとか言うヤツで仮装してんだぜ？」

OP「…………まさかエンディング…」

ノコ「そういや、さっき…狼男の親子と魔女とドラキュラが裏口から行ってた様な…」

OPさん、気づいて下さい；ルイージがヨッシーに言うと、二人は慌てて立った。

ルイ「あの僕、お菓子を用意しないといけないので…。」

ヨッシ「私はそのお手伝いに！」

OP「なら俺も行くよ。エンディングは多分、クッパ達と一緒に言ってるだろうし；」

三人は帰って行きました。

その後、皆は楽しいハロウィンを過ごしました。マリオも途中参加しました。

マリオ「俺も混ぜろよ♪」

OP「OK♪」

そして、その次の日。エンディングが帰ってきました。ヨッシーは既に帰っていました。

エン「たっだいま。」

OP「遅かったな。」

エン「いやそれが…J r. に軽く懷かれた。」

ルイ「あーいい子だね。」

エン「…次はどこに行こうか…。」

??「決まっていなかったら僕等の所に案内するよ♪」

その声と共に、四人は妙な空間へと吸い込まれていった。

次回…謎の声の正体は!?!?そして、彼等の運命は!?!?

3. 攫った理由と空気の男（後書き）

マリオ「やっと出れたぜ!!」

ルイ「でも、まだまだいるんでしょう?」

エン「ああ、大丈夫だよ。」

OP「スマブラ系はまとめるんだっけ?」

エン「うん。」

ルイ「∴;（怒る人いるだろうな;）で、ではお楽しみに;」

4. 異空間から抜けた先は…（前書き）

マリオ「何でだ？ 久しぶりにでたのに散々な目に…」

エン「何でしょうねえ；」

ルイ「…僕、嫌な予感しかない…。」

4. 異空間から抜けた先は…

突如現れた異質な空間…。その中に吸い込まれた四人の運命は！？

〈1…エンディングの場合〉

バッシャン！ガボガボガボ…。ゲホッ！？

エン「ゲホゲホゲホ…。う、う；ここは…？？」

いきなり水面にダイブしたエンディングは、辺りを見回した。どうやら、風呂場に落っこちた様だ。

エン「あーあー…ビッショビショだ（呆笑）」

もはや呆れるしかないが、近くにドライヤーがあったので乾かす事にした。

エン「皆は…どこに行ったんだ？」

エンディングは小さく呟き、乾いたら探索しよう…。と思った。

〈2…OPの場合〉

フカツ、という効果音が丁度良いくらいのベットのの上に、OPは落下した。

OP「オブフツ；…ん？フツカフカだなあ♪でも寝てたら駄目だしな；」

OPは名残惜しそうに立ち上がった。そして、部屋を注意深く見て…

OP「よし♪」

部屋の外へと走り出た。誰もいない廊下は、黒かった。

OP「ここって…暗黒城？」

ま、そういう事ですなあ。

↓3…ルイージの場合↓

ルイージは比較的安全な場所で落ちた。

ルイ「うわっ…。ん？ここ…ソファアの上…？？」

そして辺りを見回す。誰もいない。ルイージは急に不安になった。

ルイ「……………（お化けでないよね…？）」

変に不安になりながら、ルイージはおとなしく待っていた（何をだよ）。

↓4…マリオの場合↓

マリオはテラスに引っかかって、何とか下には落ちていなかった。

マリオ「アツブね…；」

上によじ登ったマリオは、視線を感じた。顔を上げると、一人の男がいた。

マリオ「!! お前は! Mr. L!!」

Lと呼ばれた男は、顔を上げた。ルイージとそっくりなL:ただ、色は彼よりも濃い色だった。

L「軽々しく名前を呼ぶな。」

イライラした様に呟くと、彼はそのままどこかへと歩いていった。

マリオ「やっぱアイツ:似てるな...。」

一人残されたマリオは呟くと、そのまま城の中へと入っていった。

く再びエンディングの場合く

エン「やっと乾いた♪」

??「よかったねえ。」

エン「うん♪」

おい、気づけよ。

エン「それにしても:何でデイメーン、手伝ってくれないのさ?」

デイメ「自分でさせた方がいい経験になるでしょ?」

デイメーンと呼ばれたこの男(?)：紫ベースの衣装を着ていて、顔には仮面をつけている。表情が読めない。

エン「でもさ、いきなり引っぱり込むのは無しだと思っただけど;」

デイメ「どこにも行くところ無いとか言ってたじゃん。」

ケンカしないで下さいよ? 進まないのです。

デイメ「さて：会議室(ラスボス所)まで行く?」

エン「残り一人も紹介しないとね。」

もう紹介されてますが。

二人はお構い無しに、歩いていった。

ゝ場所：暗黒城(会議室)ゝ

会議室に着いた二人は、ソファーにいたルイージとOPから軽くどやされた。

OP「遅いぞー(笑)」

ルイ「心配したんだからね;」

エン「ごめんよ;」

デイメーンは早速ルイージに悪戯しにいますが。そこへMr. Lがやってきた。

エン&ディメ「あ、エリリン！」

L「ハモるな！！」

二人は正座させられています。そこへマリオ登場。

マリオ「何やってんだよ；」

ディメ&エン「正座中！。」

L「そこで次まで反省してろ。」

OP「なあ、次はどこ行く？」

エン「やっぱりマスハン達の所とか♪」

ディメ「僕等も付いていっていいかい？」

OP&エン「良いよー♪」

ルイ「…（凄く不安だな；；）」

マリオ「…………（俺がきをつけねえとな；；）」

こうして二人は…次の話まで正座をさせられる事になってしまった…。

次回…いざ、マスハン達の世界へ！！！

4. 異空間から抜けた先は…（後書き）

マリオ「おい、二人とも顔色悪いぞ?」

エン&デイメ「大丈夫……な訳あるか。」

OP「アハハ♪お前等面白いな♪」

エン「…………（もうアイディアでないや……）」

5. いざ、あの世界へ!! (前書き)

エン「…三日も正座させられてた…。」

ディメ「立てない…。」

マリオ「本当にこれ、終わるのかよ?」

5. いざ、あの世界へ!!

前回から二人増え、今の所6人で移動している。

エン「てかどうやって行くの?」

マリオ「大丈夫だって。ワープ装置あるから。」

6人はワープ装置に乗ってロビーらしき場所へ着いた。

マリオ「久しぶりに来たな…。」

ルイ「本当だねえ♪」

エン「本当♪」

エン以外「「「「は?」」」」

エン「あゝえっと…取材してくる!!」

マリオ「あ、逃げた!!!」

五人はエンディングに置いて行かれた。

マリオ「…また出番なしか…。」

（場所…一階廊下）

エン「振り切った…。」

エンディングはのんびりと廊下を歩いていた。直線上に：ダンボールがある。

エン「：ダンボール：。良し：開けて見ましょう♪」

遠慮なしに開けたダンボールには、男が一人入っていた。

?? 「ん?：大佐、また後で連絡する。」

エン「スネークさんかゝやっぱり。」

スネ「何の用があつて来た?」

エン「自己紹介をどうぞ!」

スネ「ああ；俺はソリッド・スネーク。この無限バンダナから何でも出るぞ!」

エン「例えば?」

スネ「ダンボールや銃：果てには手榴弾だな。」

エン「おゝおゝ；：あ、マスター達は!?」

スネ「そうだな：：終点あたりじゃないか?：：三階から行けるぞ。」

エン「ありがとーございます。では!」

スネ「：行つたか。：：：大佐!」

スネークは通信を再開した。

「場所…二階モニタールーム前」

エン「…何か声が聞こえ…うわぁ!？」

エンディングの目の前には、銀の仮面をつけた小さな球体とピンクの球体があった。

?? 「君だ…れ？」

?? 「ここではあまり見かけないが…？」

エン「私はエンディング。二人も自己紹介どうぞ？」

?? 「僕、カービィ! 吸い込んだ敵の能力をコピー出来るの。」

?? 「私はメタナイトだ。大王様をお守りしている。」

エン「成る程。…三階への階段ってどこです？」

カー「そっちだよ？」

エン「ありがとう。」

エンディングは二人と別れた。

「場所…三階ワープ部屋」

エンディングはやっと、ワープ部屋に来ていた。…青い閃光が見えた；

?? 「Hey! 危ないぜ！」

エン「おう；」

出てきたのは真っ青なハリネズミだった。みんなお分かりだね；

エン「そっちも危ないよ；」

?? 「そうか…S o l l y ;」

エン「自己紹介どうぞ（笑）」

?? 「俺か？俺はソニック！素早いぜ☆」

エン「こっからか…。」

ソニ「何か言ったか？」

エン「いえいえ…。」

エンディングはソニックと別れ、終点へ向かう装置に乗った。

（次回…終点の二人。）

5. いざ、あの世界へ!! (後書き)

マリオ「…えらく最後は唐突だな？」

エン「時間がやばかった(笑)」

OP「授業中に書くなよ;」

6. 任天堂の神!! (前書き)

エン「いよいよ彼等が!!!!」

??「俺のキャラあんまし知らねえくせに。」

エン「すいません;」

6. 任天堂の神!!

ワープ装置を抜けた先には…終点が見えた。いや、ホントに。

エン「そういやココ、全く来た事ないなあ…。」

ぼやきながら進む。…白い巨大な何かがあった。手か？手袋か？

エン「お、マスハン。」

呟いて、そっと進んだ。足音を殺し、気配もなるべく消した。…元々、気配は薄いが。

エン「……（よし、近くまで来た）。」

どうやらマスハンこと、任天堂の神…マスターハンドはプログラムを直すのに熱中している様だ。

エン「…………（せーのーd）」

声を掛けようとした瞬間に、誰かに持ち上げられた。

?? 「マスター、コイツは誰だ？」

マス「ん？…何だ、Eか。」

エン「…久しぶり…。てかEって呼ばないで；」

言いながらも身を捻って、自分を持ち上げているモノを見た。もう

一つ手袋が…。

エン「誰!？」

?? 「俺か?俺はクレイジー。マスターの弟だ。」

エン「…本当!？」

マス「ああ。因みに彼が持つ力は、私とは正反対だよ。」

となると破壊の力か…。エンディングはある事を思い出し、二人に尋ねた。

エン「そう言えば…二人とも、カービィでは敵として出てなかったっけ?」

マス「出て…いたな。何で今更?」

エン「ゲーム中に会ったからだよ;叩き潰されたし。」

クレ「ハハハッ!ざまあねえな!」

エン「…………; (クレイジーの方を先に倒したって言ったら、怒るよなあ;)」

マス「クレイジー、そろそろおろしてやったらどうだ?」

クレ「へーい。」

…エンディングはどうやらつままれていたらしい。すぐに下ろされ

た。

エン「さて……次は何処に行こうか…。」

マス「もうあの世界には行ったのか？」

クレ「は？……ああ、あそこな。」

エン「多分いってないでしょうねえ…。」

マス「なら、行ってくるといい。」

エン「マリオ達もいるけど…。」

クレ「それなら俺等に任せとけよ。この世界に置いとくからよ。」

エン「了解です！」

エンディングは二人と別れた。マスターの呟きは誰にも聞こえなかった。

マス「…また暴走しないといいがな…。」

（場所…スマブラ競技場（？）前）

マリオ「あ、やっと来たな。」

エン「色々トラブルがあってね；あ、マリオ達はココで…。」

ルイ「そうなの？…ちょっと寂しいなあ…。」

ディメ「僕がいるよ♪」

L「お前な；」

エン「あららら；」

二人は四人と別れた。そして、例の世界へと向かった。

OP「次は何処なんだ？」

エン「当ててみてよ♪」

次回…有名なネズミk…ギニャアアア！？

6. 任天堂の神!! (後書き)

OP 「何があったー!？」

エン 「電気…くら…た…」

?? 「次は言わないでね！」

7. さあ世界的に有名な彼等!!! (前書き)

OP 「おいおい；題名が；」

エン 「自分でもよくわかりません；」

7. さあ世界的に有名な彼等!!!!

前回、何故か痺れたエンディング。それでもOPと一緒に旅を続けていた。

OP「さうて…次はどこ行くの？」

エン「あそこだよ♪」

そこにあつたのは変な装置。エンディングがその上に乗ると、何とポケモンの姿になっていた。

OP「…あれ！？エンディングか!？」

OPの目の前には、色違いのヨノワールがいた。人語を喋っている。

エン「これでOKです。」

OP「口調まで；」

エン「ほら、OPも早く乗ってください。」

せかされて乗ったOPの姿は、色違いのゲンガーになっていた。

OP「おお、変わったぜ!」

…なんで口調変わるのさ。

OP「…で、何で色違いなんだ？」

エン「今から行くのはポケダンと呼ばれる世界ですからねえ。」

OP「ああ、だからか。」

二人は手始めに、トレジャータウンへと向かった。

（場所…トレジャータウン・カクレオンの店前（何でとばしたかはスルーで！））

カクレオンの店の辺りまで来た二人は、見事にぶつか…りそうになったルカリオを透けてかわした。

ルカ（名前・??）「あ、ごめんなさい！」

エン「いえ、大丈夫ですよ。…そちらは？」

ルカ「大丈夫です…」

僅かに緊張している様だが、波動が違うのに気付いているらしい。OPが名乗った。

OP「…俺はOP。こっちはエンディングだ。お前は？」

リオル「僕はリュウって言います！」

エン「はじめまして、リュウさん。」

そして握手を交わしている所に、カメックスがやってきた（口調がゼニガメのまま；）。

カメ「お、リュウ！ここにいたのか。」

リュウ「うん。」

カメ「…その二人は…？」

かなり胡乱げな顔で見られた（特にエンディングは）。先ほどと同じ挨拶をすると、

カメ「オイラか？オイラはベイ！よろしくな。」

二人はベイとも握手を交わした。エンディングがOPに耳打ちした。

エン「…（そろそろ行きましょうか？）」

OP「…（へーい）」

エン「さて…私達はそろそろ、ギルドに行きませんと。」

OP「そうだな。」

リュウ「今から？」

エン「はい。」

ベイ「なら、オイラ達と一緒に行くこうぜ。」

…こうして二人と一緒に行く事になった。

（場所…ギルド前）

ギルドの前…そこには、足跡を鑑定（？）する網（？）があった。
リュウが言った。

リュウ「ここに乗って、足跡をしてください！」

まずはOPが乗った。

？？ 1 「ポケモン発見！ポケモン発見！」

？？ 2 「誰の足型？誰の足型？」

？？ 1 「足型はゲンガー！足型はゲンガー！」

OP 「おお…。」

？？ 2 「その…もう一匹！そっちも乗れ！」

エン「…命令されるのは癪ですが…乗りましょう。」

そして乗った瞬間に、鑑定（？）が始まった。

？？ 1 「ポケモン発見！ポケモン発見！」

？？ 2 「誰の足型？誰の足型？」

？？ 1 「足型は…えーっと…」

？？ 2 「おいディグダ？どうした！？」

どうやら鑑定(?)していたのはディグダらしい。まだ唸っている。

ディグ「だ…だってえ…足が無いんだもん！」

?? 2 「足が無いだあ!?!…ん?前にもあった様な…。」

考え込んでいる。そして、駆け上がってくる音。

?? 2 「あ!お、お前は!!また性懲りも無くきやがったな!!!」

…どうやらこの世界のヨノワールと勘違いしている様だ(本当は良
い奴なのに…)。

?? 2 「オイコラ!何できやがった!!」

?? 3 「何をわめいてる!!」

…今度は鳥ポケモンがきた。音符の形の頭…ペラップか。

ペラ「何を騒いでるんだ!」

?? 2 「だってよ…またヨノワールの野郎が…」

ペラ「何だって!?!…ん?何だ、人…いやポケ違いじゃないか。」

…良く色が違うって分かったな。

ペラ「どうもドゴームが迷惑を…。」

ああ、あの煩いのはドゴームってのか。

ドゴ「本っっ当にすまねえ!!」

エン「いや、何も謝らなくても…;」

ペラ「いやいや、はじめを付けさせなくては…;」

何故か謝り合戦の様になっている;

ペラ「さて…お詫びにこの中を案内しましょう!」

流石ペラップ。良く頭が回るな(笑)

エン「お言葉に甘えて…行きましょう!」

OP「おう…ケケケ。」

そして二人は、ペラップについて行った。

次回…あれ?前回の間違ってる?…あゝあゝあゝ…えっと…プク
リン登場★

7. さあ世界的に有名な彼等!!!(後書き)

OP「オイ!? 最後までした!？」

エン「錯乱しましたよ.;」

8. プクリン親方とご対面★（前書き）

OP 「色んな意味で大丈夫か？」

エン 「…テストダメかも知れません。」

マリオ 「勉強しろー！！！」

8. プクリン親方とご対面★

さて…ギルドの中を探検だー（笑）

↓場所…ギルドの地下一階↓

今、エンディング達はギルドの中を案内されている。ペラップが羽で示した。

ペラ「ここにある掲示板で、お尋ねモノを捕まえたり…探しモノを見つれたりするんです。」

エン「ほう…（本当はゲームしてるから分かるんですが；）。」

そして、梯子を更に一つ降りた。

↓場所…ギルドの地下二階↓

ペラップが振り返り、再び羽で示した。

ペラ「そしてここが地下二階の…いわゆる生活の場、とでもいいま
すか…。」

そこには沢山のポケモン達が居た。まず最初にヒマワリのようなポケ
モンが反応した。

??? 1「キャー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！
またヨノワールが来たのですのー！ー！
？」

それを聞いてビーバーの様なポケモンも反応した。

?? 2 「またでゲスカ!? ひーーーー命だけはーーーー!!」

うん。面白い反応だなあ…。ペラップが怒った様に言った。

ペラ「お黙りっ!! 彼等はエンディングさんとOPさんだ。未来のヨノワールではない!!」

?? 1 「そうなのですか?? 御免なさい…。ワタシはキマワリですわ!」

?? 2 「ごめんなさいでゲス; あっしはビッパでゲス。」

その騒ぎを聞きつけたのか、ギルドの仲間達が集まって来た。

?? 3 「あら、新人さん?」

エン「いいえ; ただプクリンさんに挨拶を、と。」

?? 3 「そうなのですか…。ワタクシはチリーンです。宜しく願いしますね。」

そして、一つの扉が開いた(表現がおかしいです;)。出てきたのはピンクの…

ペラ「親方様! 彼等が挨拶をと…。」

…コイツ等は私に恨みでもあるんですかね;
ナレーター

親方「彼等?…あ、君達だね♪」

エン「私はエンディングと言います。」

OP「俺はOPだ。」

親方「ボクはプクリン。宜しくね、トモダチ♪」

お、プクリンも違うって分かってるんですねえ。

プク「で、君達は何処から来たの?」

エン「ここよりも遥かに遠い所…とでも言っておきます。」

分かりそうで分からない回答。皆は首を傾げている。…質問に答え
ている内に、夜になってしまった。

チリ「あら、夜になってしまいましたね…。」

その時、ビッパのお腹が鳴った。続いて、リュウのも。

ペラ「さて…ご飯にするかい?」

全員「イエーイ♪」

チリ「お二人もいかがですか?」

エン「どうでしょうか。」

OP「甘えさせてもらうか。」

エン「そうですね…。」

ペラ「決まりですね。」

そして二人は、皆と一緒に食堂へと入っていった。

くその頃の…場所…あの装置がある場所く

ポケモンになる装置の前に、一つの影があった。その人物は装置を見ていた。

??「…これは…。使用している、様ですぢゃ…。」

そして杖を振り上げると、炎を放った。装置に当たり、壊れてしまった。

??「これで、いいですぢゃ…………。」

そしてその影は箒に乗ると、飛び去っていった。

く戻って…場所…プクリンのギルド入り口く

エン「お見送りは良いですよ。」

と言ったにも関わらず、リュウとベイだけは見送りに来た。

リュウ「また、来て下さいね。」

ベイ「良い所だろ?」

OP「おう。」

エン「では…。」

そして二人は階段を降りて行った。その時のエンディングの表情は、強張っていた。

〈場所…帰りの畦道〉

OP「どうしたんだよ？そんなに急いで。」

エン「確かめなければいけません。…ああっ！！」

エンディングの視線の先…装置は、見事に壊されていた。

OP「オイ、何が…ゲゲツ！？何だこりゃ！？」

エン「…やはり…壊されていましたか…。」

OP「どういう事だよ！？」

エン「…今は一刻も早く、マスター達の所へ行かなくては！！」

言いながら、装置を念力で浮かせた。そのままワープ装置へと向かって行った。

OP「…一体、何が起きてんだよ…。」

OPもボヤキながら、エンディングの後について行った。

次回…壊された装置。果たして二人は人間に戻れるのか!?

8. プクリン親方とご対面★（後書き）

OP 「つー事はよ、装置が直るまでこのままか？」

エン 「そういう事になりますねえ…。」

OP 「マジかーーーーー！……！！！」

9. あれ、コイツ等スーパーマリオRPGの奴等じゃ…(前書き)

OP「オイ、題名はどういう事だよ!？」

エン「どうもなにも…そのまま(笑)」

マリオ「嫌な予感しかしねえよ;」

9. あれ、コイツ等スーパーマリオRPGの奴等じゃ…

前回の場所から、エンディング達は何とか戻ってきていた。

OP「ふう…やっと着い…ん？何かいるぜ？」

そこにいたのは、背が異様に高い、白っぽい人物だった。

エン「あれは…出ても大丈夫ですよ。」

そう言って、エンディングは出て行った。その人物の目の前に。

エン「どうも、お久しぶりです。」

??「ああ、久しぶりだな。…その姿という事は、また壊されたのか。」

エン「どうもその様で…;」

??2「おーい、早く行くのニャー!!」

??「直ぐ行く!…また会おう。」

エン「ハイ。」

短い会話が終わった。OPが僅かに驚いた様に言った。

OP「さっきのって…まさか、カリバーか!？」

エン「そうですが？」

あっさりと言うなよ；…何故、彼が人型なのか。それは…

OP「何で人型なんだよ。」

エン「私が彼等に人型を与えました。…彼の他にもいるでしょう？」

OP「まさか…ユミンパとかか!？」

エン「ご明答。」

との事。二人は移動速度を上げる為、上空の移動を開始した。

（場所…ワープ装置を抜けた、ロビーらしき所）

二人は、マスハンに装置を直してもらう為に、再びやって来た。

エン「さて、行きます…」

OP「さて、誰がいるぞ!？」

そこにいたのは、ルイージ達四人と…人の様な形をした、ポケモン。

エン「…仕方ありませんねえ…シートでも被っていきます?」

OP「しゃーねーな;」

二人はシートを被り、通り過ぎようとした。

マリオ「ちよつと待て；お前等誰だ！？」

予想通り、マリオに止められました；

エン「直ぐ私達を忘れるとは；」

マリオ「何だ、お前等かよ；」

OP「悪いかー；」

エン「あ、そうだ。彼にも自己紹介させないと；」

「？？」
「∴私はミュウツー。エスパータイプでは最強と言われている。
」

エン「おや、それは違うと思いますよ？エスパーは他にもルギアと
かいるでしょう？」

ミュ2「∴サイコネシス！」

おや、ここでのミュウツーさんはどうやら怒りっぽい様で；放たれたサイコネシスは、エンディングに当たった瞬間に消えてしまった。

ミュ2「な…！？」

エン「……………！！！！（しまった！！！！）」

エンディングさん、どうやら攻撃をされるとは思わなかったもよう；

ディメ「君等のシート取るよ♪」

いつの間にかディメーンからシートを取られました；姿があらわになり…

ルイ「ギャアアアア！！お化けー！！！！！」

ルイージの叫び声で騒然となりました；

L「誰だお前等！！！！！」

ミュ2「彼等はポケモンのゲンガーとヨノワールだ。」

マリオ「ポケモン！？」

マス「おい、どうしたんだ；」

余りの騒がしさに二人が出て来ました；；

マリオ「コイツ等が二人の名前を騙ったんだ！！」

クレ「ん？コイツ等が…。お前等ちよつとこっちこい！」

マス「待て！“宵の月を見る者よ”」

エン&OP「“汝は暁に吞まれたり”」

マス「“吞まれた者はそこで知る”」

エン&OP「“自らが何者か、何をすべきかを”」

マス「∴彼等はどうやら、本当のエンディングとOPの様だ。」

クレ「さっきの言葉は何だよ!？」

マス「彼等がもしもこの姿で訪れた時、本人かどうかを確かめる為の言葉さ。」

そして、マスハンは二人に向き直った。

マス「何があった?」

エン「それがですね∴例の装置が壊されました∴」

マス「またか∴; しかも今回は∴OPまでも;」

OP「直せるか?」

マス「ああ。だが∴一日はかかるぞ。」

エン「…………ここに泊まって良いですか?」

クレ「条件付きでな(笑)」

クレハンは奇妙な動きをしながら、含み笑いしている様な声で言った。

クレ「“皆と乱闘する”これだけさ(笑) 勿論、メシ・風呂・部屋はあるぜ♪」

エンディングは少し考える素振りを見せた。ミュウツーは考えが読めている。

エン（考え）『泊まろう。そうしなければ、色々と面倒ですし…。』

そして、エンディングが口を開いた。…あれ、ヨノワールの口どこだ（笑）

エン「そうですね…。お言葉に甘えましょうか。」

すると、マリオが口を開いた。

マリオ「じゃあ早速、俺と乱闘しようぜ！」

エン「受けて立ちましょう。」

そうして、二人（+α）は乱闘をする事となった…。

次回…乱闘が開始する。

9. あれ、コイツ等スーパーマリオRPGの奴等じゃ…（後書き）

エン「乱闘ですねえ…容赦しませんよ？」

マリオ「やっぱ、口調が違うと何かなれないな〜；」

OP「俺もだぜ（笑）」

ルイ「……（お化け怖いお化け怖い）」

デイメ「ルイルイ落ち着いてよく〜；…あれ、エリリン??？」

L「お、俺は怖くねえからな!!!!」

デイメ「……；（震えながら言っても説得力ないよく〜；）」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9706x/>

作者&友人…そして例のキャラ達の紹介

2011年12月5日19時07分発行